

## 甲賀市レッドリスト 2022 淡水貝類 概要

### ◇ 甲賀市の淡水貝類（淡水貝類相および地理分布の特徴、解明度）

- ・ 甲賀市域の淡水貝類について整理された文献はないが、みなくち子どもの森自然館では、市内で採集された淡水貝類の標本を保管している。
- ・ 甲賀市は、市域の大半は山間部や丘陵部となり、琵琶湖のような天然の大きな止水域や緩やかな大河川の環境に乏しい。そのため、県内の琵琶湖岸域や瀬田川等の流れる地域と比較すると、淡水貝類の種数は少ない。
- ・ 鈴鹿山脈や信楽山地からの小河川や細流が、山麓の集落付近をゆるやかに流れる場所では、水田への灌漑水路などに、カワニナが見られることが多い。また、野洲川の土山町大野地区から水口町にかけての野洲川周辺の平野部では、湧水の細流が見られる場所があり、カワニナやドブシジミ類などの良好な生息地となっている。
- ・ 市内中心部に広がる丘陵部の水田地帯には、谷からの浸み出し水があり、谷の最上部のため池、水田の水路、それらが集水された小河川といった水環境が見られる。こうした地域では、一年を通じて水がある水路やため池、冬にも水たまりが残る湿った水田を中心に、イシガイ、ドブガイ類、外来シジミ類、カワコザラガイ、マルタニシ、オオタニシ、ヒメタニシ、ヒメモノアラガイ、サカマキガイ、ヒラマキミズマイマイなどが確認されている。
- ・ 野洲川の支流である杣川の流域では、支流の小河川や、水田への灌漑目的で杣川から引かれた用水路にマツカサガイが見られることがある。
- ・ 近年の甲賀市の淡水貝類の生息に対する危機として、従来からの農地周辺での圃場整備、河川・池沼の土木工事に加えて、放棄水田の転用（乾燥化、太陽光発電用地へ）も、水田や水田周辺の環境に依存する淡水貝類の減少の一因と指摘できる。

### ◇ 甲賀市レッドリスト 2022 淡水貝類 掲載方針

- ・ 甲賀市レッドリストでは、市内に分布する淡水貝類を評価対象とした。しかし、調査が不十分であること、分類的な問題があることから、評価対象外とした種類がある。
- ・ 甲賀市レッドリストでは、2017年更新時から淡水貝類を対象とした。その後、現地調査は十分とはいえず、更新すべき新たな情報は少ない。
- ・ カテゴリー定義：「絶滅種」は過去に生息したが、現在は見られない種。「絶滅危惧種」は、生息場所が若干カ所（2・3カ所）以下、あるいは極限された（狭い1地域など）分布域。「絶滅危機増大種」は生息場所がかなり少ない、あるいは限定された地域のみ分布。「要注目種」は情報不足で、上記分類群に入る可能性が高いが決定できないもの。良好な環境に生息する指標種で注目が必要な種など、とした。「地域種」については、地理的に甲賀市付近に特徴的な分布をする種や、市内に特有な形態や遺伝の型が分布する種

を選定した。市内に広く分布し親しみ易いだけでは掲載しないこととした。

◇ 甲賀市レッドリスト 2022 淡水貝類 掲載種の概要

- ・ 各カテゴリー掲載種数は以下の表のとおりであった。

表. 甲賀市レッドリスト 2022 淡水貝類 掲載種数

＼	2022	2017	2012	2007	備考
絶滅種	0	0	策 定 せ ず	策 定 せ ず	
絶滅危惧種	0	0			
絶滅危機増大種	2	2			
要注目種	5	5			
地域種	1	1			
(合計種数)	8	8			

- ・ 掲載種として、絶滅危機増大種にマツカサガイ、イシガイ、要注目種ではドブガイ類、ドブシジミ、マシジミ、カワコザラガイ、オオタニシ、地域種はマルタニシが指定された。

◇ 甲賀市レッドリスト 2017 淡水貝類からの変更とその理由

- ・ 2017 年から変更点はない。変化を把握するほどの現地調査の精度がない。

◇ 甲賀市レッドリスト 2022 淡水貝類の各カテゴリーの掲載内容と掲載理由

- ・ 絶滅危機増大種に指定された 2 種では、マツカサガイは杣川支流の一部や、杣川からの灌漑用水に、数か所の生息地が知られている。イシガイは同じく杣川支流のため池の直下の用水路でドブガイ類（タガイ？）とともに採集された。また、近年は確認されていないものの、水口町泉の周辺の水路にも、1960～70 年代に大型の 2 枚貝と魚類のアブラボテが見られたとの聞き取りがある。
- ・ 要注目種 5 種では、ドブガイ類は市内の丘陵地を中心にして広く記録があるが、両種を区別した分布が明らかでない。これらは、ため池を干した際に確認される程度で、減少した可能性も高い。ドブシジミは現況が不明である。マシジミは外来シジミ類との浸透交雑が進んだと考えられ、マシジミの形態に近い個体が得られたものの、純系が残るのか不明である。カワコザラガイは水口町内の 2 か所のため池と野洲川のワンドの記録があるが、微小で調査不足の可能性が高い（別記のとおり、外来種の可能性が高いとの指摘もなされて今後の検討が必要）。オオタニシは市内の数か所のため池で確認されているのみで、マルタニシと比較して分布が限定される。
- ・ 地域種は、マルタニシが指定された。甲賀市には、圃場整備が済んだ地域においても、特に丘陵部の水田には、冬季も水たまりができる場所が多く、そうした水田ではマルタ

ニシが見られる場所が多い。全国的にも、滋賀県内でも減少傾向にある種が、市内では比較的多く見られることから指定した。

#### ◇ 甲賀市レッドリスト 2022 淡水貝類 今後の対策・留意点

- ・ 絶滅危機増大種のマツカサガイの生息地は数か所、イシガイの生息地は1か所のみ知られており、いずれも小河川や用水路であることから、水路や護岸の改修などがされる際には、影響を軽減する措置をとることが必要である。ドブガイ類については、タガイとヌマガイを区別した調査が必要である。また、ドブガイ類の分布については、ため池の底を確認できる機会に調査する必要がある、今まで知られた以外の生息地が少ないならば、より上のランクに移る可能性が高い。
- ・ ドブシジミ類やマメシジミ類、その他の微小な巻貝類など微小種について、今後分布種が増えたり、生息状況が判明したりする可能性が十分にある。
- ・ 今回のリスト策定によって、主な種のリストアップがなされたと考えられる。しかし、市内で淡水貝類を調査できる人が少ないこともあり、新たな分布種の確認や種の増減を追跡できる体制とはいえない。今後のレッドリスト改訂に関わる課題である。

#### 【参考文献】

環境省（2020）環境省レッドリスト 2020. <<http://www.env.go.jp/content/900515981.pdf>>

（2020年3月27日公表、2022年9月閲覧）.

甲賀市みなくち子どもの森自然館（2007）甲賀市レッドデータブック- 守ろう!!甲賀の自然と生き物. 80pp. 甲賀市, 甲賀.

甲賀市みなくち子どもの森自然館（2018）甲賀市レッドリスト 2017

<<http://www.city.koka.lg.jp/item/11775.htm>> （2022年9月閲覧）.

Saito, T., Do, V.T., Prozorova, L., Hirano, T., Fukuda, H. & Chiba, S. (2018) Endangered freshwater limpets in Japan are actually alien invasive species. *Conservation Genetics*, 19: 947-958.

滋賀県生きもの総合調査委員会（2021）滋賀県で大切にすべき野生生物-滋賀県レッドデータブック 2020. 675 pp., 滋賀県自然環境保全課, 大津.

【淡水貝類 担当者：氏名（所属）】（敬称略、あいうえお順）◎：監修

大谷 ジャーメン ウィリアム（日本貝類学会）◎

金尾 滋史（滋賀県立琵琶湖博物館）